

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	スーパー（店長）	・4～6月までは販売量も下降トレンドにあったが、7～8月は販売量が少しずつ伸びている傾向にあるので、今後もう少しは伸びるだろうと考えられる。	
		コンビニ（店長）	・開店まだ5日目だが、近隣に出店した新店が好調な滑り出しを見せている。自店においても来客数のダウンがさほどみられない状況で、両店合わせての来客数は間違いなく増加するとみている。これから秋・暮れに向けて良くなることが期待される。	
		家電量販店（店員）	・大手家電量販店がオープンするので、市内全体で活気が出る。	
		乗用車販売店（役員）	・新車のモデルチェンジの時期であるが、最近の傾向から受注が期待できる。	
		高級レストラン（スタッフ）	・旅行業界では、沖縄人気やオリンピックで停滞していた北海道への需要が回復するとされている。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・道外客の予約が好調で、道内客の動きも徐々に景気の回復の浸透もあって活発化しつつある。	
		旅行代理店（従業員）	・猛暑が和らいだ8月の第4週から来客数が増加しており、10月以降の国内旅行申込が順調に増加している。	
	変わらない		観光名所（役員）	・予約状況が堅調である。
			商店街（代表者）	・天候やイベントなど一過性の要因で売上が伸びているが、安定した景気浮揚となる要因は見当たらず、今後もトレンドは変わらない。
			商店街（代表者）	・ある程度の秋冬のトレンドというのは見えてきているが、客がどの程度興味を示し、商品の動きにどう現れるかまだ分からない。
			一般小売店〔酒〕（経営者）	・販売数量がやや伸びているものの、依然として単価が低い。ビールであれば発泡酒等が良く売れているなど、なかなか売上が増えてこない。
			百貨店（売場主任）	・高額品の動きがやはり鈍い。中元商戦も単価・客数含めて非常に厳しかった部分があり、3か月先も同様に厳しくなる。特にコート関係の厳しさが心配される。
			スーパー（店長）	・秋物衣料についても割引等を実施しているが、客の反応はあまり良くなく、依然として消費の厳しさは続いている。
			コンビニ（エリア担当）	・暑さで、飲料水・ビール・アイスの売上が伸びたが、その他の商品の売上はあまり増えていないため、今後も変わらない。
			乗用車販売店（従業員）	・来客数はあまり変わらず、前年と同じ程度であり、まだ不景気といった感じがする。
			住関連専門店（営業担当）	・気候は前年と同じような条件で変わらないが、売上アップにならない。一部の製品に単価のアップがみられるが、消費者の購入意欲は盛り上がりてこない。
			高級レストラン（スタッフ）	・客単価は上昇していないが、数か月先の予約件数は前年並みである。景気の良い本州観光客に期待している。
一般レストラン（スタッフ）	・来客数は堅調に推移しているが、単価が低く、売上の増加につながらない。この状態がしばらく続きそうだ。			
観光型ホテル（経営者）	・豊作による地元客・道内客の増加に期待するが、景気回復感に乏しいだけに増加が期待できるか未知数である。また、紅葉が早そうなので道外客も期待できると考えられるが、天候次第の面がある。			
旅行代理店（従業員）	・海外旅行が増加しているが、国内旅行が減少しており、全体としては変わらない。			
旅行代理店（従業員）	・回復基調の海外旅行と停滞気味の国内旅行でトータルの販売額は平行線となる。			
タクシー運転手	・北海道は秋から冬にかけて輸送繁忙期となるが、ここ数年の動向をみると楽観はできない。			
観光名所（職員）	・いつもタクシーの空車状況について注意を払っているが、依然として空車の数は多いままである。			
その他レジャー施設（職員）	・北海道を本拠地とするプロ野球チームが優勝争いに関与すれば、景気は上向きとなるが、そうでない場合にはプロ野球のシーズン終了前に下向きになる。			
設計事務所（所長）	・建築業界の場合、1～2か月ごとに上下するものではないが、少し上向きの現状維持といったところだろう。			

	やや悪くなる	スーパー（店長）	・価格強化の販促手法で約3年が経過しており、店頭での消費行動に大きな変化はみられないが、買上点数がやや回復傾向となっている。直近の数値では単価が前年比93%に対して、買上点数が前年比100%と、確実に客一人当りの買上点数は増加してきている。ただし、社会トレンドからも、単価の下げ止まりについては想定できない状況である。
		スーパー（企画担当）	・夏場商戦の寄与要因であった猛暑効果、オリンピック効果も一段落し、また、高校野球夏の甲子園大会での駒大苫小牧校の初優勝の話題も北海道を大いに盛り上げたが、消費の心理的な持上要因にはなり得ていない。
		コンビニ（エリア担当）	・低価格志向は依然として強く、また1回当たりの購買額も増加していない。消費拡大に向かっていないとは思えない状況である。
		コンビニ（エリア担当）	・幹線沿いの店舗では、早朝と夜間の客数の減少傾向が継続しており、今後も観光と公共工事の減少が影響する。
		家電量販店（地区統括部長）	・猛暑とオリンピック景気の反動がくる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格の暴騰により、暖房用の灯油・重油価格、運送用の軽油価格が急騰し、企業や家計を圧迫する。
		タクシー運転手	・規制緩和以降、札幌市内ではタクシーの台数が増えているが、利用客は減っているため、タクシー1台当たりの売上は減少している。過当競争でタクシー業界の状況はますます厳しくなる。
		美容室（経営者）	・客の購買意欲が冷めているように感じられる。
	住宅販売会社（従業員）	・販売量の低下と来客数の動きが比例関係にある。所得の減少、不安定さが相変わらずであることが要因と考えられるため、状況としては現状維持とはならない。	
	悪くなる		
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・コントラクト物件の見積り件数が増えてきた。
		輸送業（営業担当）	・農作物の輸送・保管はもとより、紙製品の輸出が大幅に増量する見込みがある。
		通信業（営業担当）	・客との会話の内容から、設備投資への意欲や消費意欲が感じられる。さらに業績的に余裕が出てきたためか、直接短期的には収益にならない実験的な試みへの参加も積極的になってきた。
		通信業（営業担当）	・企業の投資意欲が増加しているという流れはしばらく続く。
変わらない		食料品製造業（団体役員）	・原油高騰による経済動向への影響は大きく、製造企業でのコスト上昇の要因となり、収益の低下が考えられる。また原材料の高騰が続いており、先行き不安感が増している。
		金属製品製造業（統括）	・建築設備の需要環境において、鉄骨・パイプ等の素材価格の上昇が設備機器の値下げ圧力になっている面も感じられ、明るい展望がみられない。
		金融業（企画担当）	・好調に推移してきた家電製品の一巡や猛暑効果の反動で、個人消費は弱い動きが続くものとみられる。
やや悪くなる		輸送業（支店長）	・現在のところ道内向けの鋼材・建材の荷動きは順調に推移しており、入荷もそれなりにある。しかし、具体的な道内の物件が少なく、そのため在庫が多少増加傾向にある。これが2～3か月後に景気の頭打ちにつながるのではないかと心配されている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・会議で各地区からの報告をまとめたところ、秋がれが心配されるという結論に達した。
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数の伸びも、本州の製造業の活況の影響だけではなく、多くの業種で伸びをみせており、この状況はまだ続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・依然として非正規雇用の求人の伸びが中心ではあるものの、求人のマイナス要因となるものが見当たらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・期間従業員や構内請負作業の募集ニーズが高く、道外勤務に関する求人の動向が上向きである。
		職業安定所（職員）	・卸・小売業、飲食業の求人が増加傾向にあるほか、造船関係では新造船の受注が好調である。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告受理件数は増加しているが、消費基盤を支えている常用雇用が相変わらず少なく、本当に改善につながっているかは不明である。

	職業安定所（職員）	・大型スーパー出店に伴う雇用需要は見込まれるものの、パートが主体である。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-